

季刊
正恵
副住職編集
玄松院 寺報

〒987-0024 宮城県遠田郡美里町中峠字十二神117
三浦 正恵
fishmanmiura@msi.biglobe.ne.jp

地蔵

お正月だったと思います。山門のお地藏さんに赤い毛糸の帽子がかぶせてありました。誰がかぶせてくれたのでしょうか？ 冬、外に立ちっぱなしでは寒いだろう。そう思い、心ある人が編んでかぶせてくださったにちがいない。でも、その数七個。なかなかの数だし、延命地藏尊の頭は(下からはそうでもないように見えますが)かなり大きいんです。編むのは大変だったでしょう。編むのは大変だったでしょう。だいたいにして、登ってお地藏さんの頭の周囲を計るのは一苦勞です。お婆さんにはできません。それをし



玄松院門前のお地藏さん

てまで作ってくださった……。しばらく経ったある日、小牛田の真證寺さんの前を通りました。えっ、まさか？ 私は車を止め、バックし、山門から見えるお地藏さんをまじまじと見ました。赤い毛糸の帽子がかぶせてあります。同じ人が作ってかぶせたのでしょうか。しかし、よく作ったなあ。真證寺さんのお地藏さんは、補助型というか背は低く頭がデカイんです。相当毛糸を使ったはず。でもどうして？ ひよっとして町内のお寺全部のお地藏さんに赤い毛糸の帽子をかぶせた？ 私はその足で別のお寺にも車を走らせ、門前のお地藏さんに赤い毛糸の帽子がかぶせてあるか調べてみました。(暇だ？ はい)。そこのお地藏さんにはかぶせてありませんでした。ということは玄松院と真證寺に縁が

深い人？ いや私が調べたのは一カ寺だけだから、別のお寺にはあるかもしれない。せっせと編みながら一カ寺ずつ増やしている最中、とも考えられる……。
ホッコリあたたかい話でしょ。
× × ×
移動傾聴喫茶「カフェ・デ・モンク」のスタッフとして今も沿岸部に通い続けています。仮設住宅のみなさんに沢山のお地藏さんを作っていただきました。粘土で作るんです。
「笑った顔がいいなあ」
お地藏さん作り手伝い担当の金田和尚がニコニコ顔をU字形の彫刻刀で彫っています。「彫る」というより刃で「押す」感じ。顔に目線を集中させ、金田和尚がボソッと聞きます。
「ご主人はどんな人だったの？」
「お婆ちゃん、思い出の断片をゆくり語り出します。それを聞きながら表情をこしらえてゆく金田和尚。
「こんな感じかな？」
「んだねえ……。あ、ちよつと待って。あの人メガネかけた」
「メガネ？ こんな感じ？」
金田和尚がお地藏さんの顔にメガネをつけます。それを見た瞬間……。
「命、捨ててまで人の世話やいで。どうして私を置いていつちやったのよお！」

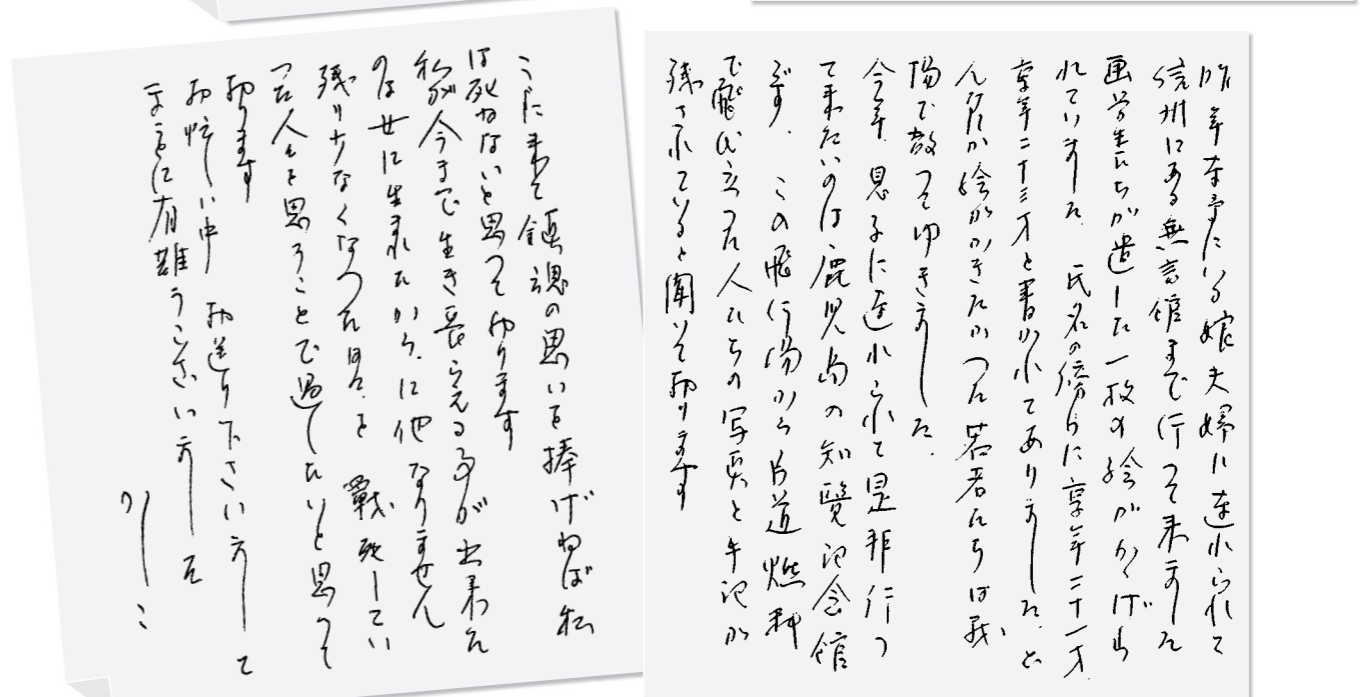
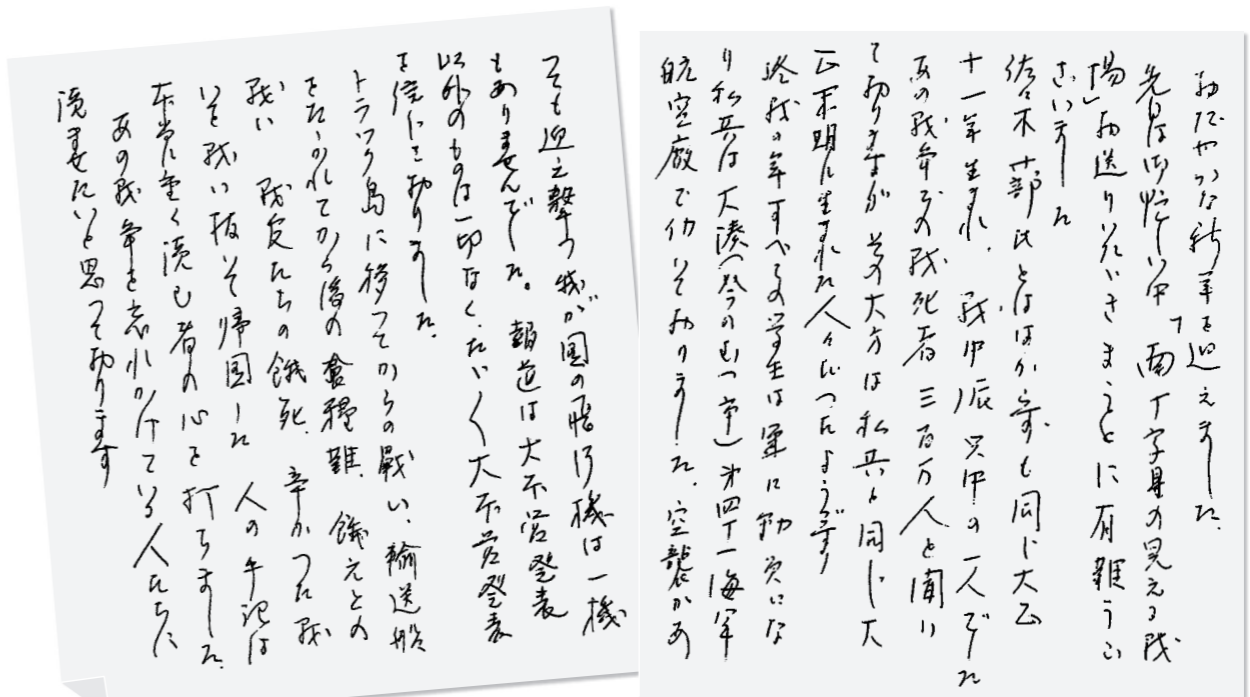
お婆ちゃんは嗚咽し、泣き崩れたのでした。一緒に泣く金田和尚……。粘土のお地藏さんは栗原にある工房で焼かれます。作ったみなさんは次のカフェまで約一カ月待ちます。この待つ「時間」がいいのですね。次のカフェ。例のお婆ちゃんは、だいぶ落ち着いていました。出来あがったお地藏さんをお渡しすると、それを握り、ちよつとすねた面持ちで、「あんた」と言ったそうです。
金田和尚は「お地藏さんは、日本仏教の最高傑作だね」と言います。
× × ×
四月二十四日は玄松院の延命地藏尊のお祭りです。大正十三年建立。当時は幼くして亡くなる子が多かった。日清・日露の戦争で若い息子を失ったかたもいた。悲しいことがもう起こらないようにと建てられました。爾来、多くのかたが手を合わせ九十一年。その年月を思い、赤い毛糸の帽子を編んでかぶせてくださったかたのことも思いながら、肅々とお祭りをしたいと考えています。



被災者が作ったお地藏さん

感想文続々...

佐々木節著『南十字星の見える戦場』を読んだ感想が続々届いています。仙台市にお住まいの福永隆子さんからいただいた感想文をご紹介します。すらすらとすべるような美しい字です。



墓石・外柵の設計・自社施工
墓石修理/建築石材全般
迅速・丁寧・責任施工・ご奉仕価格
墓石ショップ
新生石材古川店
大崎市古川荒谷新芋川94-1
Tel 0229-27-1483
☆新建築・戒名彫刻・墓所修理などのご相談は玄松院様または当店窓口迄お申付け下さい

東北新幹線古川駅から徒歩1分
くらしま齋苑
内覧随時受付中!
お気軽にお電話ください
大崎市古川駅前大通2-4-12
総合案内
0229-23-9111

●このような素晴らしい感想のお手紙が百通ほど届いています。私がひとり占めしてしまうには惜しい。みなさんと共有したい、内容の濃いものばかりです。そこで「感想文集」を作ることにしました。檀家さんで、「私も書きたい」というかたがおりましたらお早めに副住職までお届け下さい。八月の終戦記念日に間に合わせたいと考えています。